

夢をあきらめない

総合的な学習の時間、様々な方々からの講話を通して、進路や生き方の選択、学ぶ理由や自分のスキルアップ、自己実現への意欲や態度を身につけるシチマンタル・タイムの2年生は先月の16日（火）、義足のランナー・島袋勉氏の進路講演会を開催しました。2年1組さんの講話後の振り返りを掲載します。

自分の足を失い、絶望した島袋さんは普通の生活を取り戻すために、いろいろな壁が出てきます。そんなとき島袋さんは、出来ないことを出来るようにしようと考え方を変えたことはいま思い出します。自分だったら諦めてしまおうと思いません。言い訳せず現状を受け入れ、様々なことに挑戦し、フルマラソンを何度も完走したときの島袋さんの気持ちは想像も出来ません。努力する限り、「できる」に近づくと感じました。

D・Kさん



清流大川

羽地中学校
学校だより 122号
せいりゅうおおかわ
H30.11.6



振り返り

島袋さんが言っていた「言い訳しない」「ないものねだりはしない」「自分の悪いところは隠さない」という3つの事は自分にも当てはまることだと思いました。日頃から心がけていきたいです。心に響く言葉は、後一つあります。それは、「出来ないから諦めたら絶対出来ない。諦めなかつたら、可能性はある。」という言葉です。私は島袋さんのように、自分が一生懸命やっている姿で人に希望を与えられるような人になりたいです。

I・Mさん

初めて島袋さんにお会いしたとき、義足をしているのに普通に歩いていたので驚きました。島袋さんは16年前に事故にあっただけで両足を切断したと聞きました。足がないのに足の痛みがあるけんし痛や目や脳の障害の不安があっただけ、辛いことや辛いことが沢山あったと思います。それでも諦めないで、リハビリをして義足で歩けるようになったのはすごいなと思いました。

私が最も驚いたのは、義足でフルマラソンに挑戦したことでした。義足での42kmは本当にきついです、辛かったと思うけれど、島袋さんは諦めたくないという気持ちが強かったからだと思いました。

A・Kさん

島袋さんは踏切で転んで、頭をぶつけてしまい、電車でも足を失ってしまいました。事故後も足がないのに、足が痛くなるけんし痛や脳の記憶障害で覚えたこともすぐに忘れてしまうと言っていました。でも、母との電話で自分は甘えていたんだと考えると、義足でも坂道でバランスを取って歩けるし、熱いや冷たいなどの感覚も分かるようになるまで努力してきました。「出来ない事を言い訳にせず、出来ることを考える。」という言葉は、すごく参考になりました。

M・Tさん



自分の親族にも障がい者がいます。背骨を切ってしまう、下半身が動けない状態、車椅子の生活です。もう一人は、片足を事故で失い、義足生活です。そんな二人はパラリンピックスキ―選手のメンバーで、重機を扱う仕事をしています。私は、島袋さんの話を聞くまでは、二人のすごさに気づくことが出来ませんでした。島袋さんの話で改めて、親族の二人を見直しました。感謝しています。

これから、自分も諦めず、どんどん挑戦していきたいと思えます。

A・Sさん

島袋さんの話を聞いて、どんな事があっても、けっして諦めてはいけないと思いました。いろいろなことに挑戦して、いろいろな失敗をしながら前へコツコツと進むことが大切だと感じました。

両足をなくした島袋さんが何度もフルマラソンをこなしていることを聞くと、自分のことが情けなくなりました。

私はいつも途中で投げ出したりして最後までやり通したことがあまりないので、この講話をきっかけに、自分の考えが変わった気がします。

「出来ないことを考えるんじゃなくて、出来ることを考える。」この言葉に私は感動しました。出来ない事を考えている時間がもったいないので、出来ることから考えて、時間を無駄にしないようにしたいと思います。私も明日から頑張ります。

M・Oさん

